

2019年 紙・板紙内需試算報告

2019年1月21日

日本製紙連合会

JPA 内容

- I . 2018年 紙・板紙内需実績見込み……………P3
- II . 2019年 紙・板紙内需試算……………P4～5
- III . 2019年 主要品種別内需試算……………P6～16
- IV . 参考……………P17～20

JPA I. 2018年 紙・板紙内需実績見込み

(単位:ト、%)

品 種	国内出荷		輸 入		計		流通在庫増減	内 需 計		18年連合会 内需予測 (B)	伸び率誤差 (A)-(B)	
		前年比		前年比		前年比			前年比(A)			
紙	新聞用紙	2,613,089	▲ 5.9	42	500.0	2,613,131	▲ 5.9	0	2,613,131	▲ 5.9	▲ 4.2	▲ 1.7
	非塗工印刷用紙	1,812,177	▲ 4.0	61,161	▲ 56.8	1,873,338	▲ 7.7	▲ 15,814	1,889,152	▲ 7.0	▲ 3.5	▲ 3.5
	塗工印刷用紙	3,996,843	▲ 6.4	192,528	▲ 45.5	4,189,371	▲ 9.4	▲ 70,001	4,259,372	▲ 7.4	▲ 3.0	▲ 4.4
	情報用紙	1,340,126	1.8	462,870	▲ 5.9	1,802,996	▲ 0.3	▲ 8,358	1,811,354	0.3	▲ 2.0	2.3
	印刷・情報用紙計	7,149,146	▲ 4.3	716,559	▲ 27.4	7,865,705	▲ 7.0	▲ 94,173	7,959,878	▲ 5.6	▲ 2.9	▲ 2.7
	未ざらし包装紙	468,869	1.5	5,365	▲ 21.4	474,234	1.1	▲ 1,205	475,439	1.4	0.2	1.2
	ざらし包装紙	247,381	0.9	1,369	▲ 3.0	248,750	0.9	▲ 532	249,282	1.8	▲ 0.6	2.4
	包装用紙計	716,250	1.3	6,734	▲ 18.3	722,984	1.0	▲ 1,737	724,721	1.5	▲ 0.1	1.6
	衛生用紙	1,773,628	▲ 0.9	196,305	▲ 3.7	1,969,933	▲ 1.2	0	1,969,933	▲ 1.2	1.0	▲ 2.2
	紙 計	12,975,067	▲ 3.9	938,184	▲ 22.8	13,913,251	▲ 5.5	▲ 95,910	14,009,161	▲ 4.7	▲ 2.3	▲ 2.4
板紙	ライナー	5,577,794	1.2	47,713	17.8	5,625,507	1.3	1,953	5,623,554	1.3	1.2	0.1
	中芯原紙	3,703,557	1.5	285	▲ 6.2	3,703,842	1.5	▲ 2,057	3,705,899	1.5	1.2	0.3
	段ボール原紙計	9,281,351	1.3	47,998	17.6	9,329,349	1.4	▲ 104	9,329,453	1.4	1.2	0.2
	白板紙	1,458,061	1.9	432,584	▲ 3.6	1,890,645	0.6	630	1,890,015	0.3	▲ 0.6	0.9
	黄チップ・色板	141,709	▲ 0.7	0	-	141,709	▲ 0.7	▲ 417	142,126	0.1	▲ 0.6	0.7
	紙器用板紙	1,599,770	1.7	432,584	▲ 3.6	2,032,354	0.5	213	2,032,141	0.3	▲ 0.6	0.9
	板紙計	11,547,804	1.4	496,377	▲ 0.9	12,044,181	1.3	1,395	12,042,786	1.3	0.8	0.5
紙・板紙計	24,522,871	▲ 1.5	1,434,561	▲ 16.5	25,957,432	▲ 2.4	▲ 94,515	26,051,947	▲ 2.0	▲ 0.9	▲ 1.1	
グラフィック用紙	9,762,235	▲ 4.8	716,601	▲ 27.4	10,478,836	▲ 6.8	▲ 94,173	10,573,009	▲ 5.7	▲ 3.2	▲ 2.5	
パッケージング用紙	12,987,008	1.1	521,655	▲ 0.9	13,508,663	1.0	▲ 342	13,509,005	1.0	0.8	0.2	

注) 1) 国内出荷:塗工印刷用原紙を除く。

2) 輸入:新聞用紙は日本新聞協会調べ。通関との差し引き分は非塗工印刷用紙に計上した。

重袋用クラフト紙は全量を未ざらし包装紙に計上した。衛生用紙は製品輸入を含む。白板紙はミルクカートン用紙を含む。

3) 紙計に雑種紙を含む。板紙計にその他の板紙を含む。

4) 「グラフィック用紙」=新聞用紙+印刷・情報用紙、「パッケージング用紙」=包装用紙+段ボール原紙+紙器用板紙+雑種紙+その他の板紙。

JPA II. 2019年 紙・板紙内需試算 ①増減要因

プラス要因	マイナス要因
<p>①景気は引き続き緩やかな回復基調／実質GDP成長率は1%程度</p> <p>②改元に伴う広告、帳票改定等</p> <p>③イベント開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・統一地方選挙(4月) ・参議院選挙(7月) ・ラグビーワールドカップ(9-11月) ・東京2020テストイベント(マラソングランドチャンピオンシップ(9月)等) <p>④インバウンド効果の継続</p> <ul style="list-style-type: none"> ・訪日外国人客数の増加 ・商業施設、宿泊施設等の増加 ・製造業の国内回帰、等 <p>⑤イーコマースの拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ネット通販、越境EC、等 <p>⑥脱プラスチックによる紙化の動き</p> <p>⑦食品・医薬・健康関連市場は安定</p>	<p>①構造的要因</p> <ul style="list-style-type: none"> ■人口の減少／少子高齢化 ■情報・広告分野を中心に電子化の影響 <ul style="list-style-type: none"> ・商業印刷、出版印刷向け等の減少 ・企業や自治体等の使用量の減少、ペーパーレス化(コストダウン強化、環境対応) ・スマートフォン等の利用拡大(コンテンツの充実) ■包装の合理化 <ul style="list-style-type: none"> ・省包装／簡易包装化 ・軟包装化等包装資材の他素材へのシフト(材質変更)、等 <p>②消費増税</p> <p>ただし、軽減税率の導入等もあり、前回増税時に比べ影響は限定的とみられる。</p>

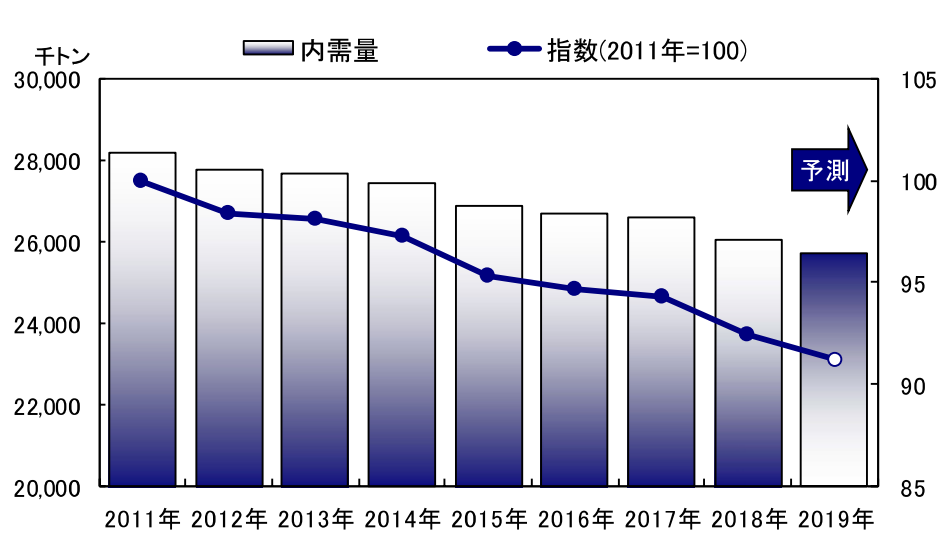
JPA ②実績推移及び見通し

(単位:千トン、%:対前年増減率)

	品 種	2011年		2012年		2013年		2014年		2015年		2016年		2017年		2018年見込み		2019年見通し	
紙	新聞用紙	3,245	▲ 3.1	3,305	1.8	3,247	▲ 1.7	3,181	▲ 2.0	3,033	▲ 4.6	2,926	▲ 3.5	2,777	▲ 5.1	2,613	▲ 5.9	2,444	▲ 6.5
	非塗工印刷用紙	2,428	▲ 2.6	2,350	▲ 3.2	2,301	▲ 2.1	2,230	▲ 3.1	2,125	▲ 4.7	2,091	▲ 1.6	2,031	▲ 2.9	1,889	▲ 7.0	1,813	▲ 4.0
	塗工印刷用紙	5,602	0.6	5,476	▲ 2.3	5,391	▲ 1.5	5,170	▲ 4.1	4,954	▲ 4.2	4,743	▲ 4.3	4,598	▲ 3.1	4,259	▲ 7.4	4,045	▲ 5.0
	情報用紙	1,853	▲ 1.8	1,849	▲ 0.2	1,839	▲ 0.6	1,831	▲ 0.5	1,813	▲ 1.0	1,836	1.3	1,805	▲ 1.7	1,811	0.3	1,794	▲ 1.0
	印刷・情報用紙計	9,883	▲ 0.7	9,676	▲ 2.1	9,531	▲ 1.5	9,231	▲ 3.2	8,893	▲ 3.7	8,670	▲ 2.5	8,434	▲ 2.7	7,960	▲ 5.6	7,652	▲ 3.9
	未ざらし包装紙	534	▲ 3.4	500	▲ 6.4	492	▲ 1.5	496	0.9	471	▲ 5.0	468	▲ 0.8	469	0.3	475	1.4	476	0.2
	さらし包装紙	291	▲ 2.8	277	▲ 5.1	269	▲ 2.6	270	0.1	258	▲ 4.4	249	▲ 3.5	245	▲ 1.6	249	1.8	251	0.8
	包装用紙	825	▲ 3.2	776	▲ 6.0	761	▲ 1.9	766	0.6	729	▲ 4.8	717	▲ 1.7	714	▲ 0.4	725	1.5	728	0.4
	衛生用紙	1,873	0.9	1,880	0.4	1,895	0.8	1,945	2.6	1,946	0.1	1,994	2.5	1,994	0.0	1,970	▲ 1.2	1,981	0.5
	紙 計	16,595	▲ 1.2	16,380	▲ 1.3	16,162	▲ 1.3	15,880	▲ 1.7	15,348	▲ 3.3	15,037	▲ 2.0	14,695	▲ 2.3	14,009	▲ 4.7	13,546	▲ 3.3
板	ライナー	5,285	1.1	5,207	▲ 1.5	5,276	1.3	5,330	1.0	5,336	0.1	5,431	1.8	5,553	2.2	5,624	1.3	5,697	1.3
	中芯原紙	3,515	0.6	3,477	▲ 1.1	3,511	1.0	3,547	1.0	3,549	0.1	3,590	1.2	3,652	1.7	3,706	1.5	3,754	1.3
	段ボール原紙計	8,800	0.9	8,684	▲ 1.3	8,788	1.2	8,877	1.0	8,884	0.1	9,022	1.5	9,204	2.0	9,329	1.4	9,451	1.3
	白板紙	1,975	1.9	1,888	▲ 4.4	1,901	0.7	1,858	▲ 2.3	1,838	▲ 1.0	1,856	1.0	1,884	1.5	1,890	0.3	1,890	0.0
	黄チップ・色板	155	0.0	143	▲ 7.7	144	0.8	146	1.2	145	▲ 1.1	143	▲ 1.0	142	▲ 0.8	142	0.1	142	0.0
	紙器用板紙計	2,130	1.7	2,031	▲ 4.7	2,046	0.7	2,004	▲ 2.0	1,983	▲ 1.1	1,999	0.8	2,026	1.3	2,032	0.3	2,032	0.0
	板 紙 計	11,602	1.1	11,366	▲ 2.0	11,503	1.2	11,555	0.5	11,517	▲ 0.3	11,665	1.3	11,892	1.9	12,043	1.3	12,164	1.0
紙・板紙計	28,197	▲ 0.3	27,746	▲ 1.6	27,665	▲ 0.3	27,434	▲ 0.8	26,866	▲ 2.1	26,702	▲ 0.6	26,587	▲ 0.4	26,052	▲ 2.0	25,710	▲ 1.3	
グラフィック用紙	13,128	▲ 1.3	12,980	▲ 1.1	12,778	▲ 1.6	12,411	▲ 2.9	11,926	▲ 3.9	11,596	▲ 2.8	11,212	▲ 3.3	10,573	▲ 5.7	10,096	▲ 4.5	
パッケージング用紙	13,195	0.4	12,886	▲ 2.3	12,992	0.8	13,078	0.7	12,994	▲ 0.6	13,112	0.9	13,381	2.1	13,509	1.0	13,633	0.9	

(注) 千トン未満を四捨五入しているため、合計と積み上げた数量の計とは合わない場合がある。なお、対前年増減率はトンベースによる。
紙計に雑種紙を含む。板紙計にその他の板紙を含む。

JPA Ⅲ. 2019年 主要品種別内需試算：(1) 紙・板紙合計

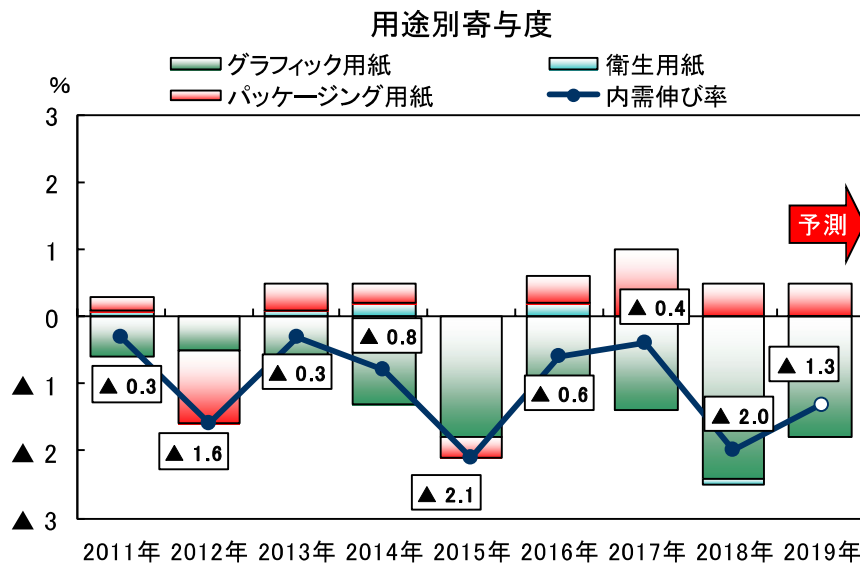


「近年の動向」

★紙・板紙の内需は、2011年以降、マイナスで推移している。これは主として、デジタル化等の影響によるグラフィック用紙の減少によるもの。他方、飲料・食品包装向け等の伸びにより、パッケージング用紙は堅調で、日常生活に密着した衛生用紙も底堅い推移を示している。

「2019年予測」

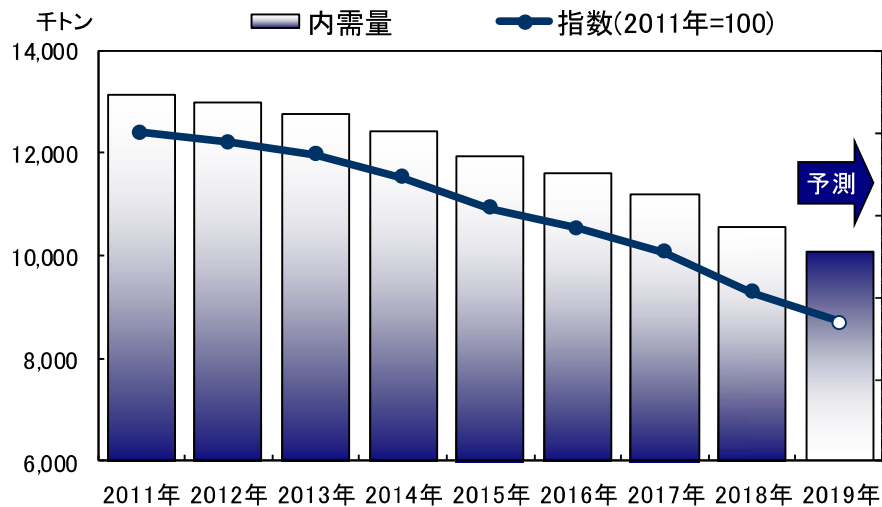
☆景気は、10月の消費増税の影響を受けつつも、全般として緩やかな成長が見込まれるが、紙・板紙については、2019年も基調に変化なく、グラフィック用紙の減少により、内需合計で前年を下回ると予想される。一方、衛生用紙、パッケージング用紙はプラスが期待される。



☆紙・板紙合計について、品種別試算結果を積み上げると、内需量は2,571万トン、前年に対して1.3%減となり、9年連続のマイナス成長が見込まれる。紙については、1,355万トン、3.3%減、板紙については、1,216万トン、1.0%増と予測した。なお、2019年の紙・板紙内需は、過去のピークだった2000年(3,197万トン)に対し、19.6%の減少となる見通し。

☆用途別では、グラフィック用紙が4.5%減、衛生用紙が0.5%増、パッケージング用紙が0.9%増と見込んだ。

JPA (2) グラフィック用紙

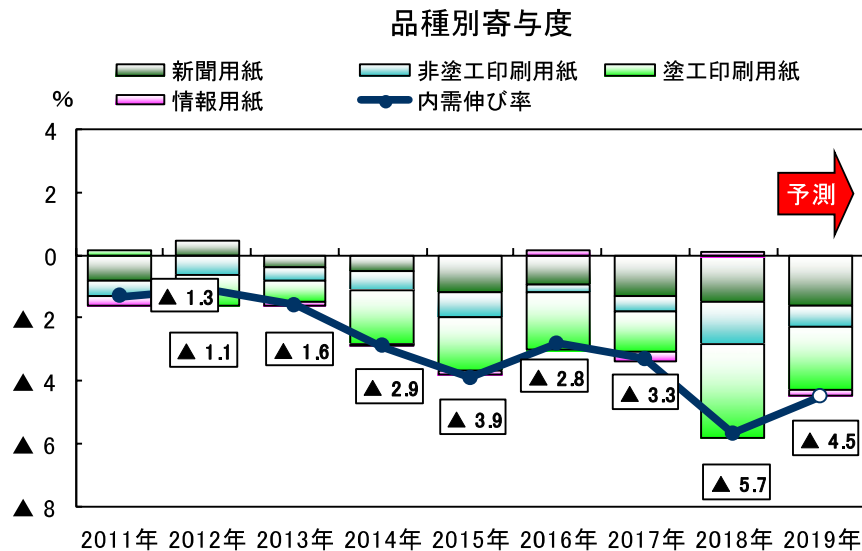


「近年の動向」

★グラフィック用紙の内需は、2006年をピークに減少している。特にリーマン・ショック後の2009年に大きく数量を落とし、その後も電子化の進行等により減少が続いた。2018年は情報用紙は前年比横ばいも、新聞用紙、印刷用紙(非塗工、塗工)はマイナスとなり、グラフィック用紙全体では12年連続の減少となった。サプライ別には国内出荷(5年連続)、輸入(6年連続)ともに前年を下回った。輸入比率は、前年比3.0pt減少の4.6%に低下した。

「2019年予測」

☆新聞用紙、印刷・情報用紙ともに電子化やペーパーレス化等により減少継続を見込む。

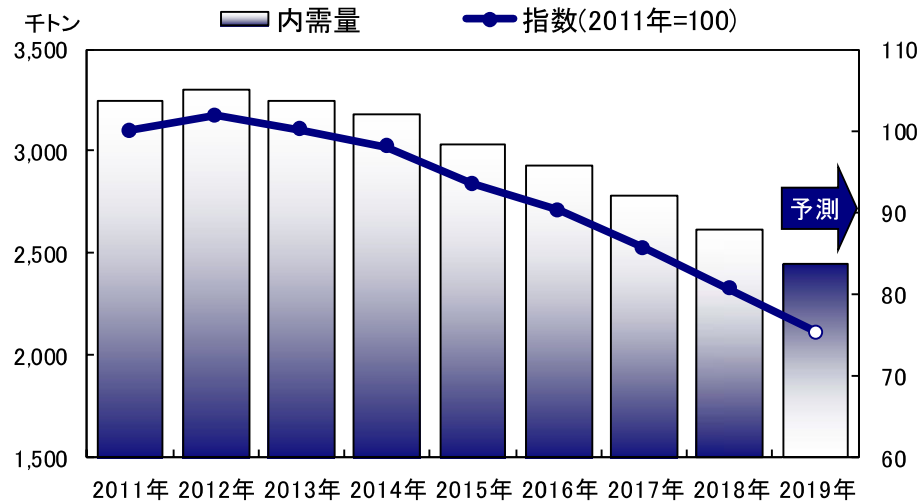


☆グラフィック用紙合計について、品種別試算結果を積み上げると、内需量は1,010万トン、前年に対して4.5%減となり、13年連続のマイナス成長が見込まれる。なお、2019年のグラフィック用紙の内需は、過去のピークだった2006年(1,581万トン)に対し、36.1%減となる見通し。

☆品種別では、新聞用紙が6.5%減、非塗工印刷用紙が4.0%減、塗工印刷用紙が5.0%減、情報用紙が1.0%減と、いずれもマイナスを見込んだ。

☆詳細については当該品種頁参照。

JPA (2) - ① 新聞用紙



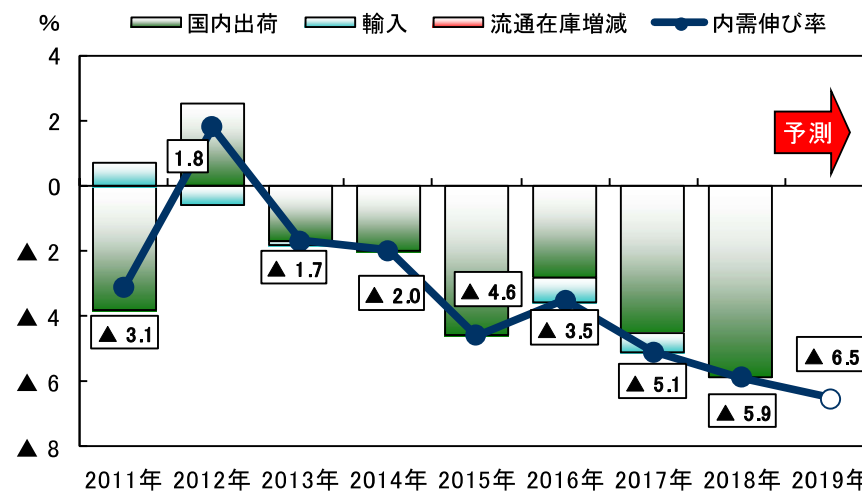
「近年の動向」

★新聞用紙の内需は、情報収集手段の多様化に伴い若年層を中心に新聞離れが進んでいることや、広告のマス媒体からネット等へのシフトといった構造要因により、減少傾向が続いている。2018年については、発行部数の減少が続いたことに加え、広告出稿減の影響もあって頁数も低調に推移し、内需は前年に対し5.9%の減少となった。

「2019年予測」

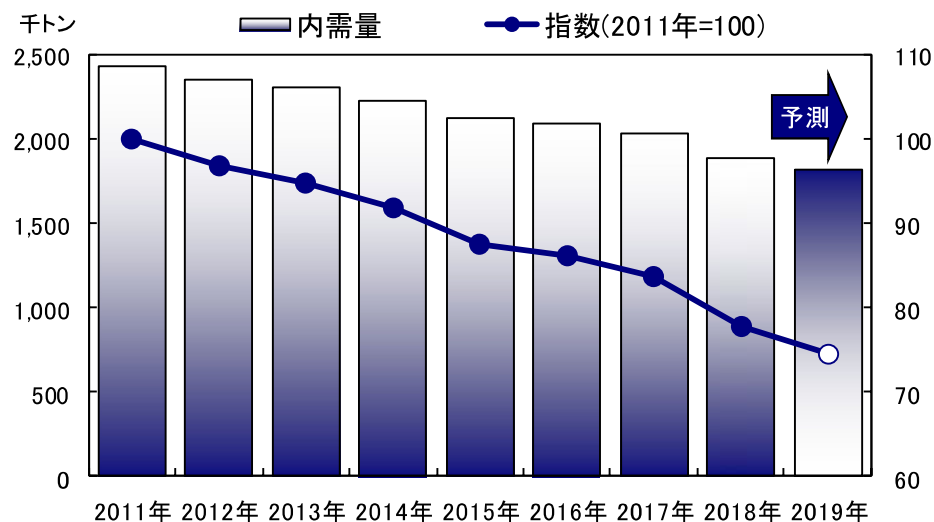
☆新聞用紙の内需は、基本的に発行部数と頁数の増減によって決まる。発行部数は、定期購読契約の新聞について軽減税率が導入されるため消費増税の影響は小さいものの、引き続き減少が予想される。頁数は、広告の他媒体へのシフト継続で広告出稿が低調に推移すると見られることから、前年を下回る見通し。また、2019年は朝刊の発行日数が2018年よりも1日少なく、夕刊についても休日数の増加から発行日数が減少する。スポット要因としては、4月の統一地方選挙や7月の参議院選挙等があるが、需要の押し上げ効果は限定的だと予想される。

寄与度



☆以上を勘案し、新聞用紙の内需は前年に対し6.5%の減少を見込んだ。

JPA (2) - ② 非塗工印刷用紙

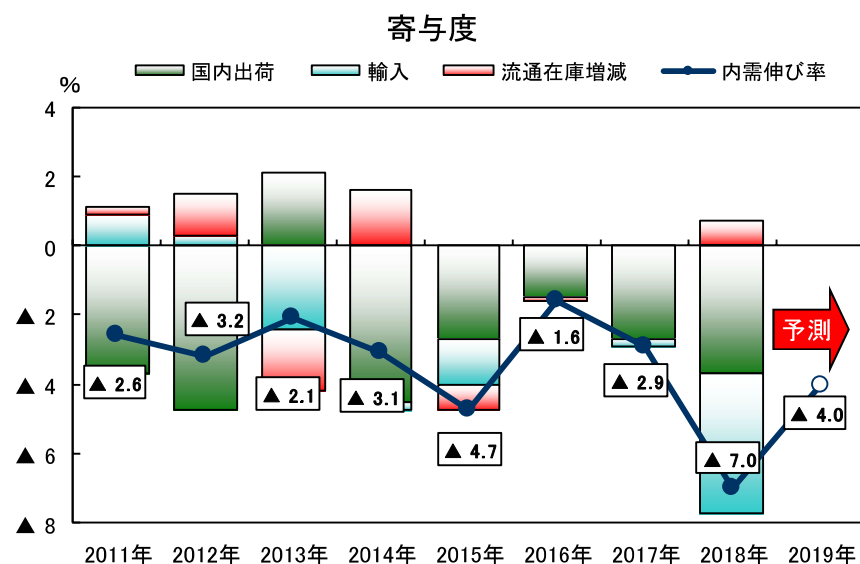


「近年の動向」

★非塗工印刷用紙の内需は、リーマン・ショック後に大きく数量を落とし、その後も中・下級印刷紙を中心に縮小が続いている。2018年も主要品種は減少し、全体では2005年以降、14年連続で前年を下回った。サプライ別にみると、国内出荷(5年連続)、輸入(2年連続)ともに前年を下回った。

「2019年予測」

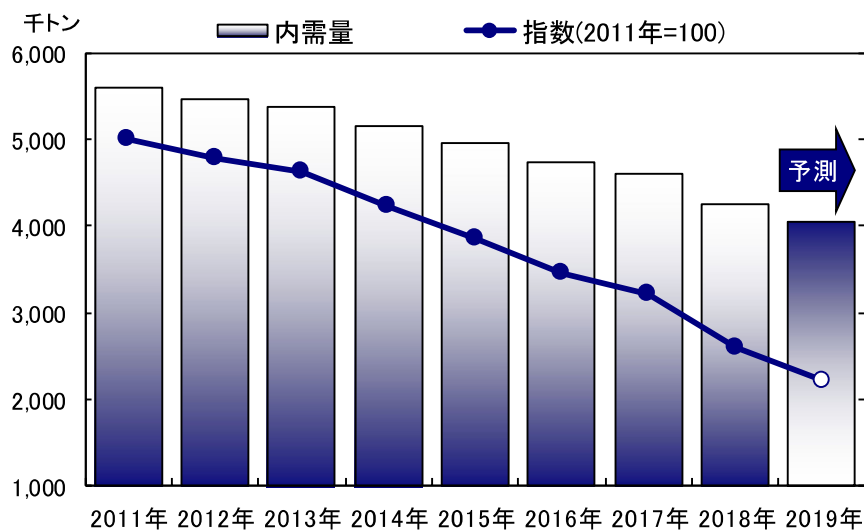
☆品種別にみると、上級印刷紙は、汎用性が高く、チラシや目論見書・取扱説明書、学参関連など底堅い需要があるものの、引き続き企業の経費削減、電子化の進行等により、前年を下回ると予想する。中・下級印刷紙は、主たる需要先である出版業界を取り巻く環境が依然として厳しく、部数の減少が続いている。特に雑誌向けは、海賊版対策の進展により、コミックス等の減少幅縮小が期待されるものの、全体としては、スマートフォンやタブレット端末向けのアプリケーション・ソフトの拡大等による情報源や娯楽の多様化の影響が大きいことから、引き続き不振が見込まれる。なお、消費増税の影響はあるものの、前回2014年に比べれば小さいと予想する。



☆以上を勘案し、非塗工印刷用紙の内需は前年に対し4.0%の減少を見込んだ。

JPA (2) - ③ 塗工印刷用紙

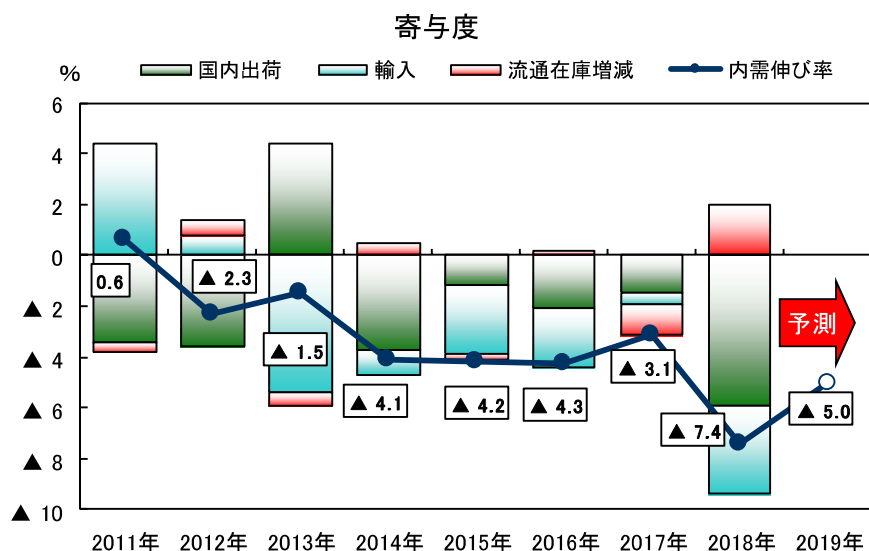
「近年の動向」



★塗工印刷用紙の内需は、2007年より縮小、特にリーマン・ショック後の2009年に大きく減少し、その後も縮小傾向にある。2018年は、引き続き電子化の進行等により、商業印刷の減少や雑誌の発行部数減が加速し、主要品種は前年を下回った。サプライ別には、国内出荷(5年連続)、輸入(6年連続)ともに前年を下回った。輸入比率は前年比3.0pt低下(4.6%)、ピークの2012年(17.9%)に比して13.3pt低下した。

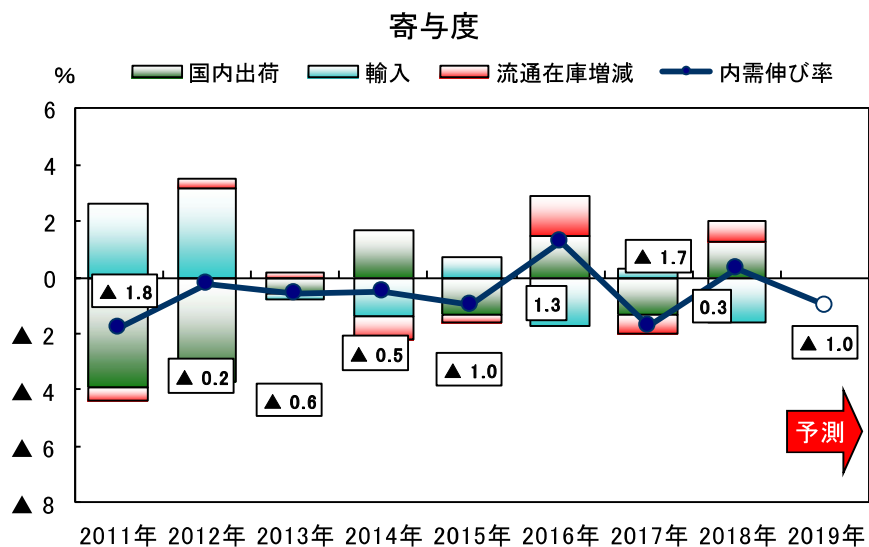
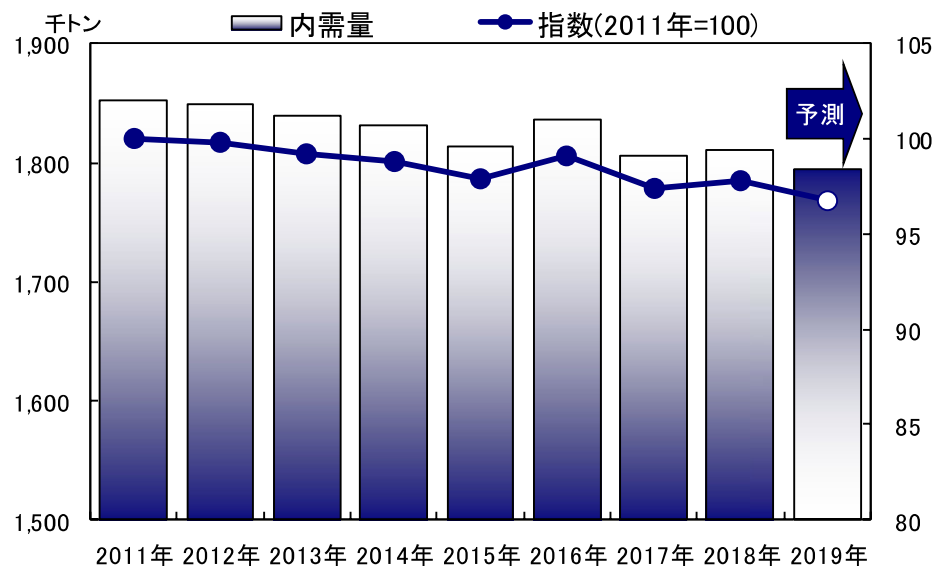
「2019年予測」

☆景気の緩やかな成長持続が見込まれるなか、堅調な企業業績を背景に広告市場全体としては増加が予想されるが、紙媒体の増加は期待できる状況にない。カタログ、チラシ等、販促用商業印刷は部数減や版型の縮小等により、引き続き低調に推移するものと予想される。また、電子チラシ、ネット広告へのシフトやグレードダウン等の動きも続くと思われる。スポット的に改元に伴う広告増も期待されるが、需要の押し上げ効果は限定的だと見ている。なお、消費増税の影響はあるものの、前回2014年に比べれば小さいと予想する。



☆以上を勘案し、塗工印刷用紙の内需は前年に対し5.0%の減少と予測した。主力品種は上質コート、軽量コート、微塗工紙、いずれも前年を下回ると見込んだ。

JPA (2) - ④ 情報用紙



「近年の動向」

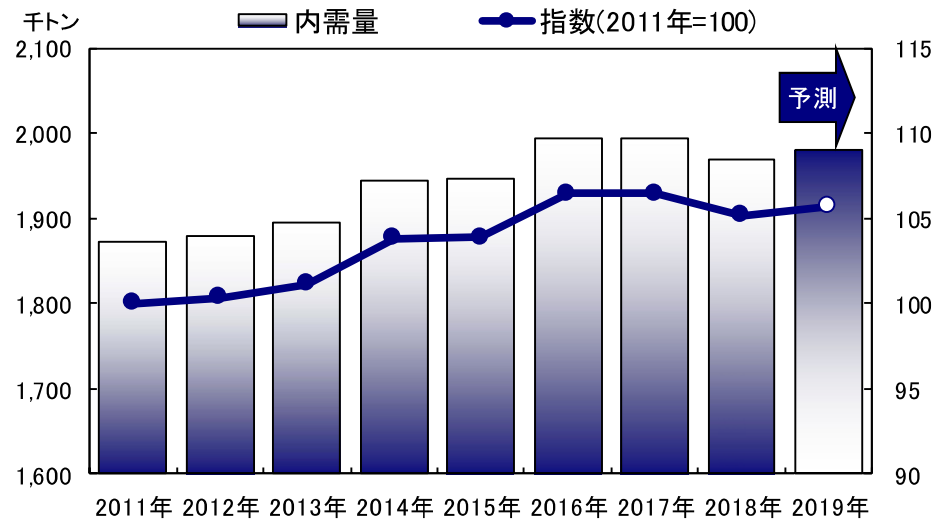
★情報用紙の内需は、2009年に大幅に減少した後、2010年は反動により増加に転じたが、2011年以降は印刷用紙よりは比較的底堅い動きとなったものの減少傾向が続いた。2018年は、PPC用紙は微減も情報記録紙等が牽引し、2年ぶりのプラスとなった。サプライ別にみると、国内出荷は増加、輸入は減少し、輸入比率は前年比1.5pt減少の25.7%となった。

「2019年予測」

☆品種別にみると、PPC用紙は、汎用性・利便性の高さから底堅く推移してきたが、ペーパーレス化の一層の進展により前年比微減を予想。フォーム用紙は、デザインフォームのDM向け等は底堅い需要が期待できるものの、電子化、カット紙化の進展により、全体としては減少を予想する。複写原紙は、カット紙化やペーパーレス化等により、前年を下回る見通し。なお、改元に伴う帳票更新等がフォーム用紙や複写原紙の需要押し上げ要因になると考えられるが、効果は非常に限定的と予想される。一方、情報記録紙は、物流分野での感熱紙ラベルの伸び等により、全体としては前年を上回る見通し。なお、消費増税の影響はあるものの、前回2014年に比べれば小さいと予想する。

☆以上を勘案し、情報用紙の内需は前年に対し1.0%の減少を見込んだ。

JPA (3) 衛生用紙

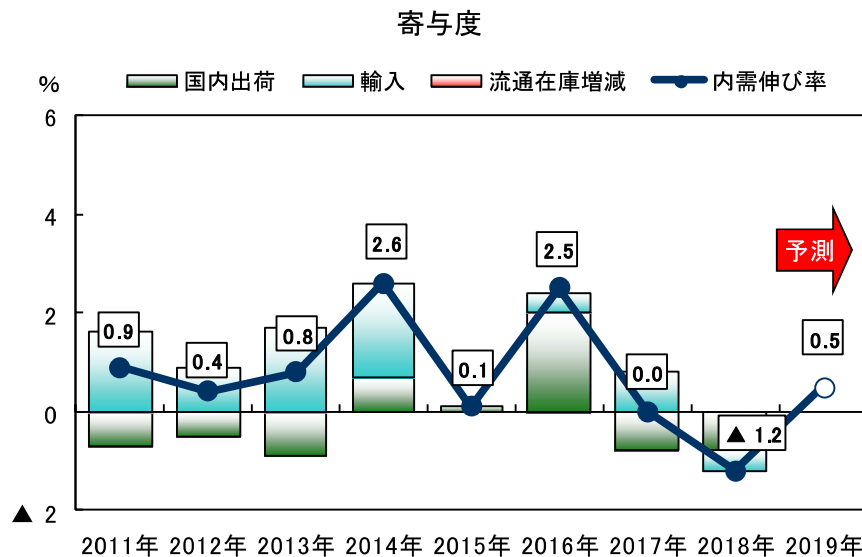


「近年の動向」

★衛生用紙の内需は、人口減少等の構造的マイナス要因はあるものの、生活必需品としての需要等により2008年から増加が続いている。近年はインバウンド需要等もあり、引き続き底堅く推移しているが、2018年の内需は前年を下回る見込みである。サプライ別では、国内出荷は2年連続の減少、輸入は3年ぶりの減少。輸入比率は9.9%となった(前年より0.1pt減少)。

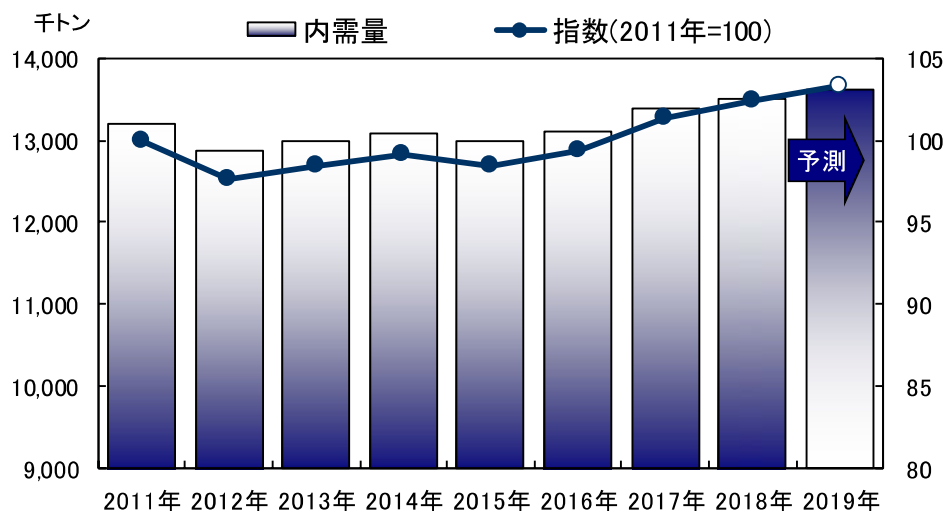
「2019年予測」

☆衛生用紙は、生活必需品としての底堅い需要や、世帯数の増加、訪日外国人の増加によるインバウンド効果、衛生意識の高まり等から、プラスが予測される。トイレtpーパーやタオル用紙においては、インバウンド需要や、ホテルや商業施設の増加等による業務用需要等が見込まれる。ティシュペーパーにおいては、保湿ティシュ等の高付加価値製品の需要は引き続き見込まれるが、影響は軽微とみて横ばいを予測する。なお、消費増税の影響については、前回2014年は駆け込み需要により比較的大きな増加となったが、2019年での影響は限定的と見られる。



☆以上を勘案し、衛生用紙の内需は198万トン、前年に対し0.5%の増加となる見込み。なお、2019年の衛生用紙内需はピークの2016年(199万トン)に対し、0.7%減少する見通し。

JPA (4) パッケージング用紙

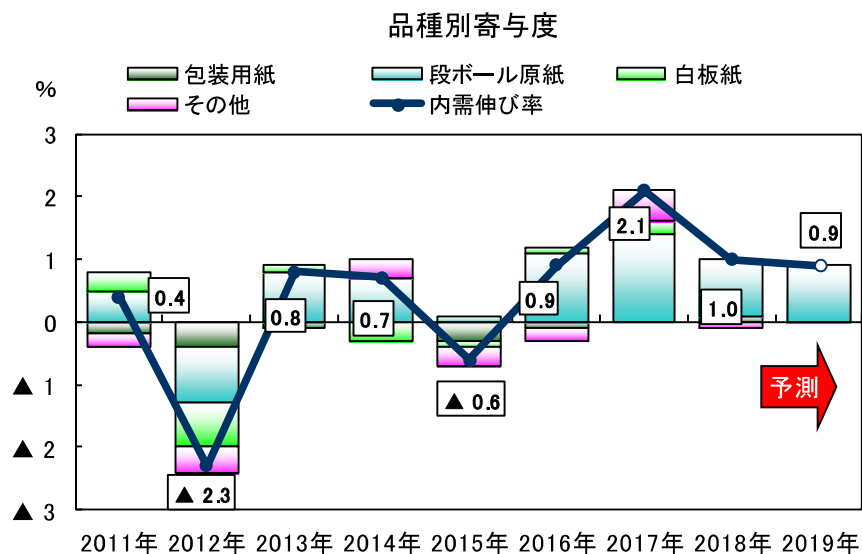


「近年の動向」

★パッケージング用紙の内需は、段ボール原紙を中心に堅調な食品需要に支えられて、電気・機械器具向けの減少等により前年を下回った2012年を除いて、増加傾向で推移している。2018年も加工食品向けの増加等により、前年を上回った。

「2019年予測」

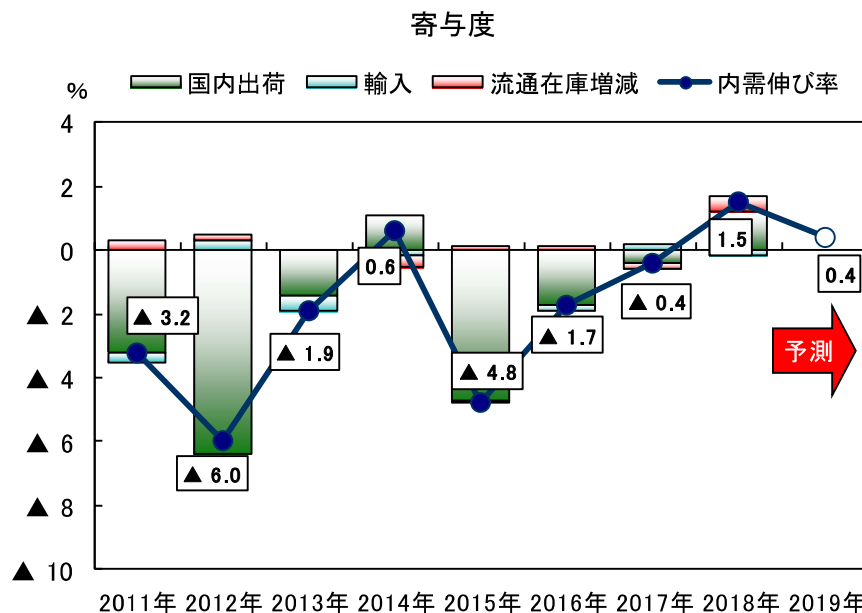
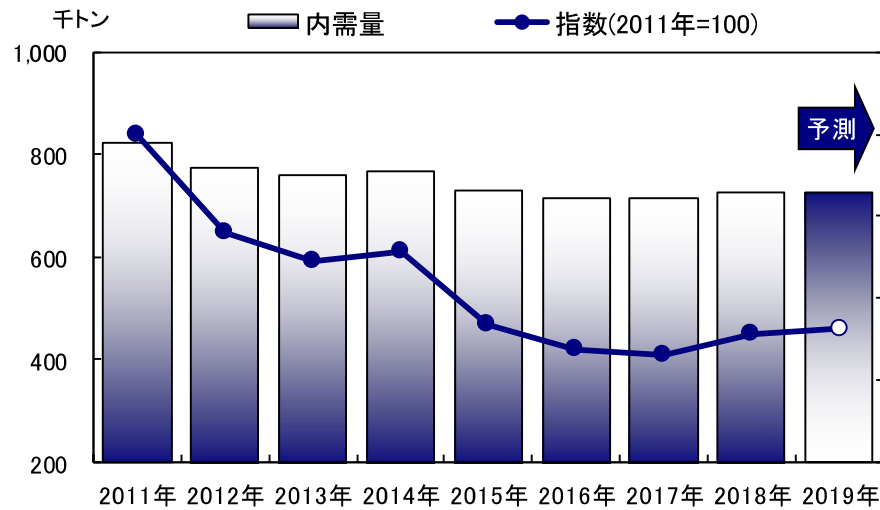
☆パッケージング用紙について、品種別試算結果を積み上げると、内需量は1,363万トン、前年に対して0.9%増加、4年連続のプラス成長が見込まれる。なお、2019年のパッケージング及び産業用紙の内需は、過去のピークだった1997年(1,486万トン)に対し、8.2%減となる見通し。



☆品種別では、包装用紙は0.4%増、段ボール原紙は1.3%増、白板紙は前年並みを見込んだ。

☆詳細については当該品種頁参照。

JPA (4) - ① 包装用紙



「近年の動向」

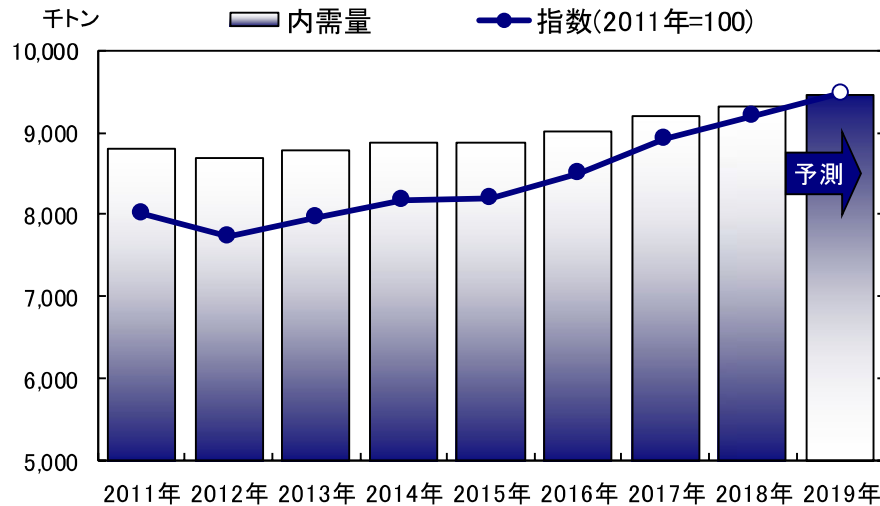
★包装用紙の内需は、簡易包装、省包装やポリ袋等の他素材へのシフトにより、消費増税前の駆け込み需要等で増加した2014年以外、その他の年は減少傾向で推移している。2018年は、重包装で石化向けが牽引したことに加え、ファストフードや宅配向けが堅調に推移したことにより、4年ぶりに前年を上回った。

「2019年予測」

☆ユーザーのコスト意識は引き続き根強く、従来の基調に変化はないが、世界で広がる「脱プラスチック」の恩恵を受けることが予想される。品種別には、未ざらし包装紙は、重包装では石化向けは底堅く推移するも主力である米麦向けが人口減少などを背景に減少する。また、軽包装ではファストフードや宅配向けの増加に加えて、脱プラスチックの恩恵により手提袋の増加が見込まれる。全体では前年を上回ると予想される。さらし包装紙は、インバウンド効果が引き続き見込めることに加えて、アパレル業界を中心に未ざらし包装紙よりも脱プラスチックの恩恵による手提袋の増加が期待できることから、前年を上回ると予想される。なお、消費増税の影響については、軽微と予想する。

☆以上を勘案し、包装用紙の内需は前年に対し0.4%の増加を見込んだ。

JPA (4) - ② 段ボール原紙

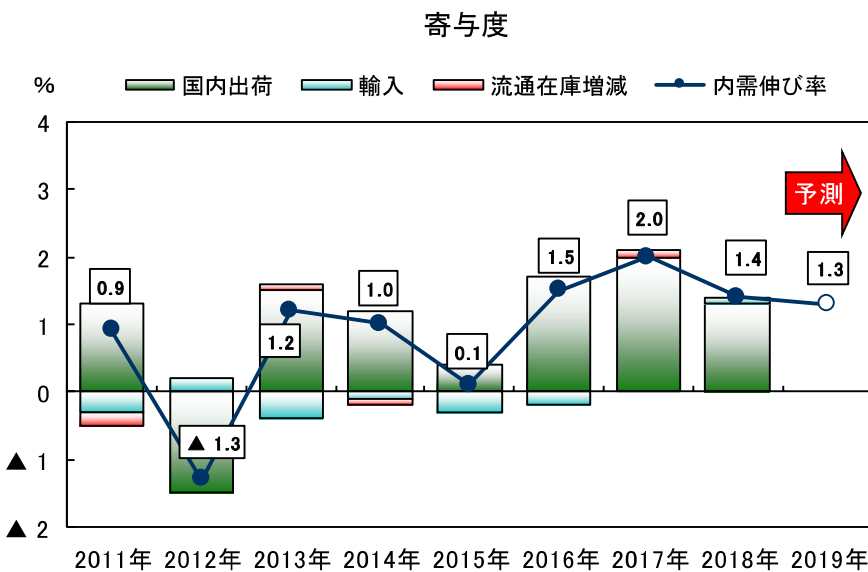


「近年の動向」

★ 段ボール原紙の内需は、2012年は電気・機械器具向けの不振等から前年を下回ったが、2013年以降は飲料を含む加工食品向けを中心に増加傾向で推移している。2018年は、異常気象や豪雨・台風等の自然災害による青果物向けの落ち込みを電気・機械器具向けや清涼飲料向けがカバーし、6年連続のプラスとなった。

「2019年予測」

☆ 全国段ボール工業組合連合会の需要予測によれば、段ボールシートの生産は1.3%増が見込まれている。主要分野のうち、需要の約4割を占める加工食品向けでは、ミネラルウォーターや茶系飲料、スポーツドリンクの堅調な推移やレモンソーダ人気に後押しされてRTD飲料は拡大が期待できる。冷凍食品は引き続き中食やインバウンドによる需要増が見込まれる。青果物向けでは前年の自然災害による減少分の反動が見込まれる。電気・機械器具向けは4K・8K放送開始による関連商品増が期待できる。通販・宅配分野は引き続き拡大するものの簡易包装化の進展により伸びが鈍化することが予想される。段ボール原紙については、近年進んでいた軽量化が足踏み状態にあることを考慮すると、段ボールシートと同程度の伸びとなることが予想される。なお、消費増税の影響については、軽微と予想する。



☆ 以上を勘案し、段ボール原紙の内需は前年に対し1.3%の増加(ライナー:1.3%増、中芯原紙1.3%増)見込んだ。

JPA (4) - ③ 白板紙

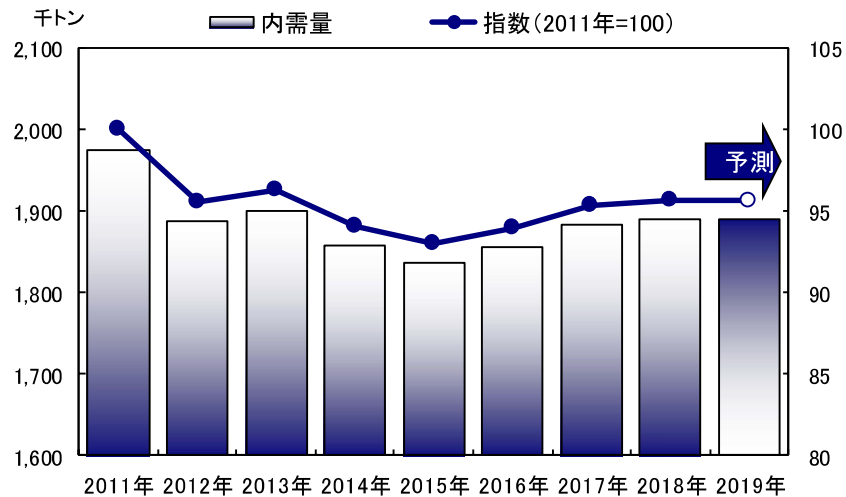
「近年の動向」

★白板紙の内需は、需要家が省包装化や軟包装化等でコストダウンを継続する中であっても、2015年をボトムとして緩やかな回復傾向にある。2018年は、需要の5割弱を占める食品向けや、医薬品・化粧品・健康食品向けを中心としたインバウンド効果もあり、3年連続で前年を上回った。

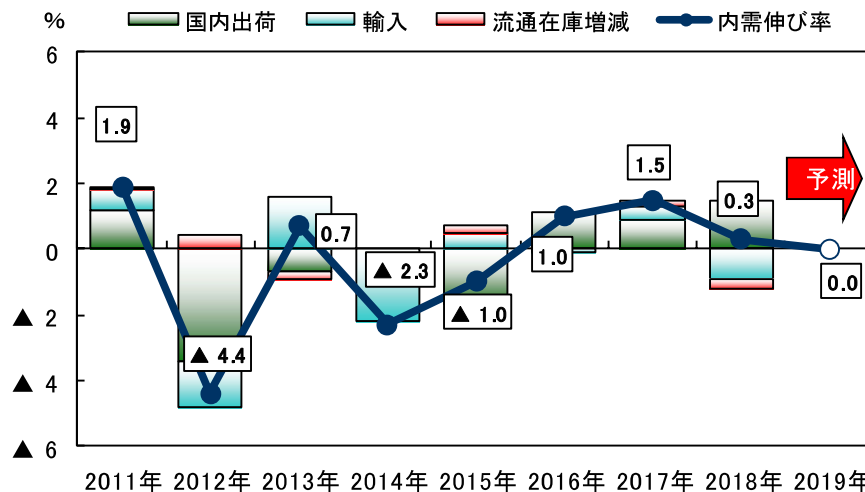
「2019年予測」

☆食品向け、インバウンドの恩恵を受ける医薬品・化粧品向け、土産物等の行楽向けやファストフード・コンビニエンスストア向けは堅調・安定的に推移すると予想される。しかし、出版向けの減少、需要家のコストダウン強化によるPOP及びキャンペーン向け等の広告の減少、内容量の減量化によるパッケージの小型化や省包装化の継続等により、白板紙全体では横ばいに推移すると予想される。なお、消費増税の影響については、軽微と予想する。

☆以上を勘案し、白板紙の内需は前年に対し横ばいを見込んだ。

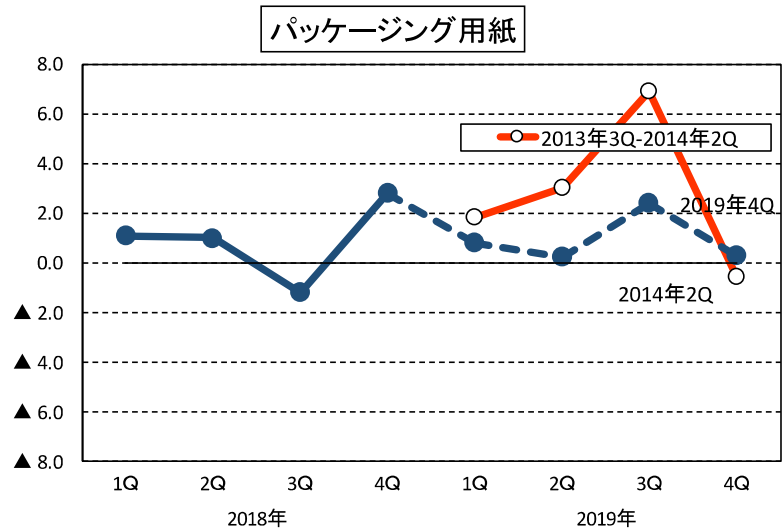
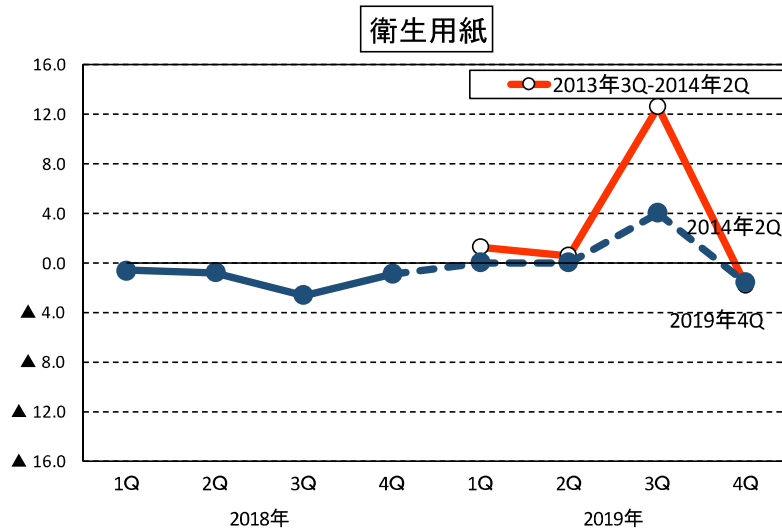
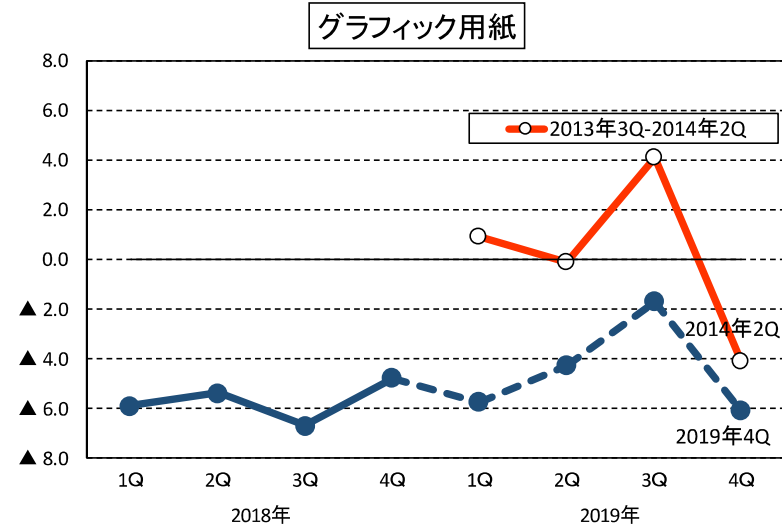
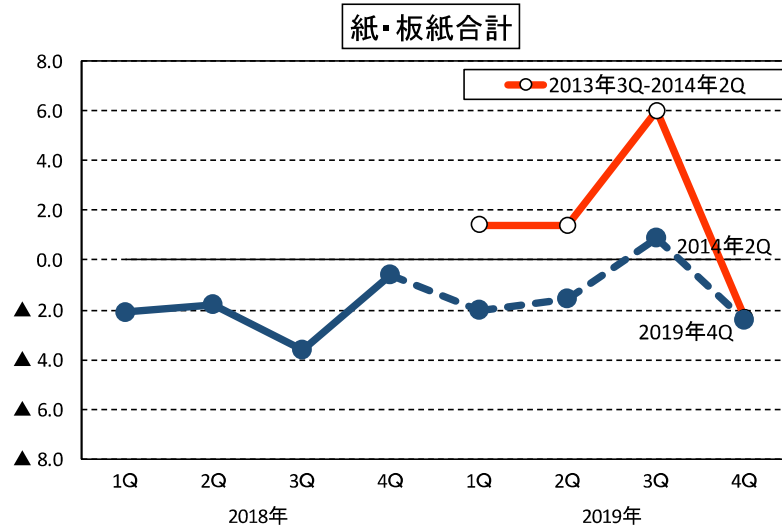


寄与度

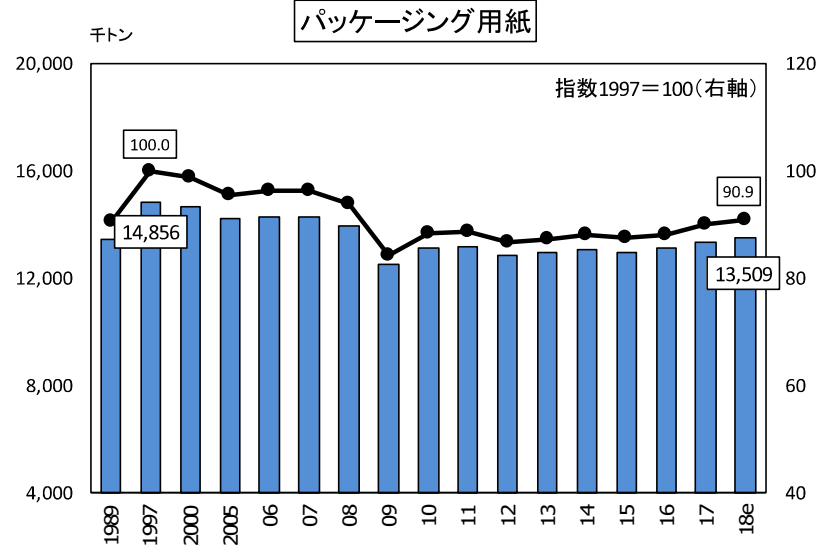
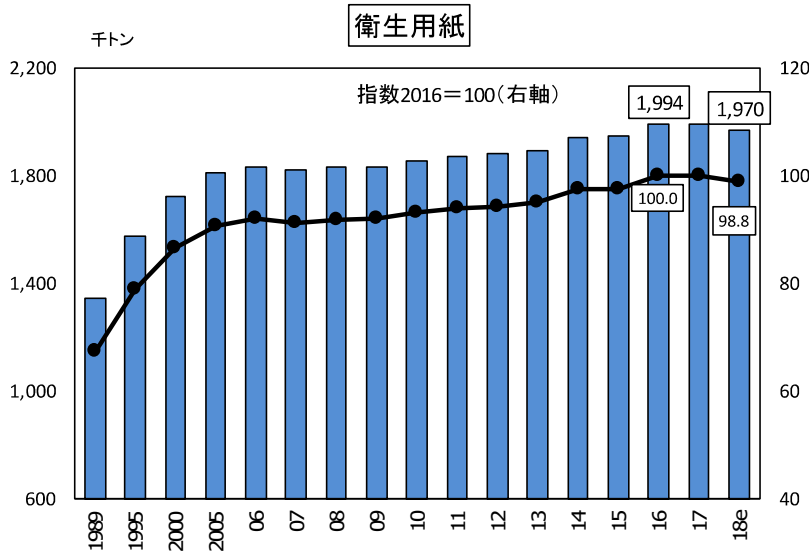
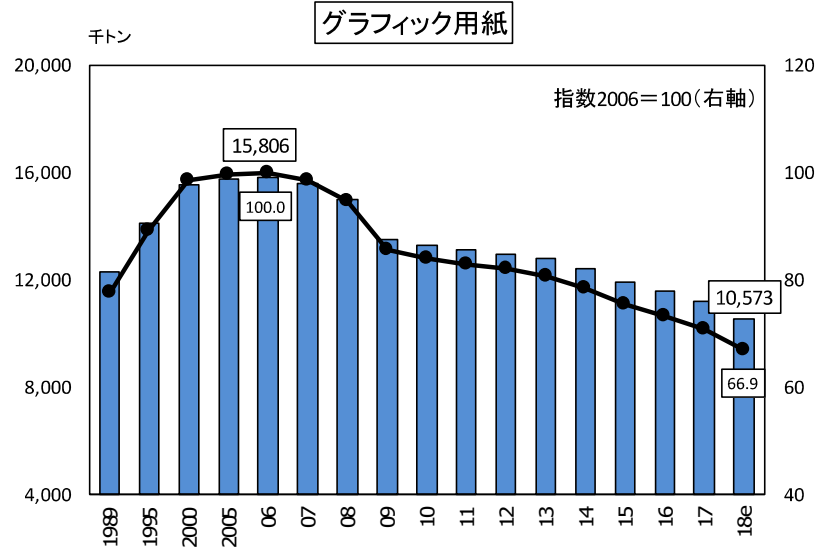
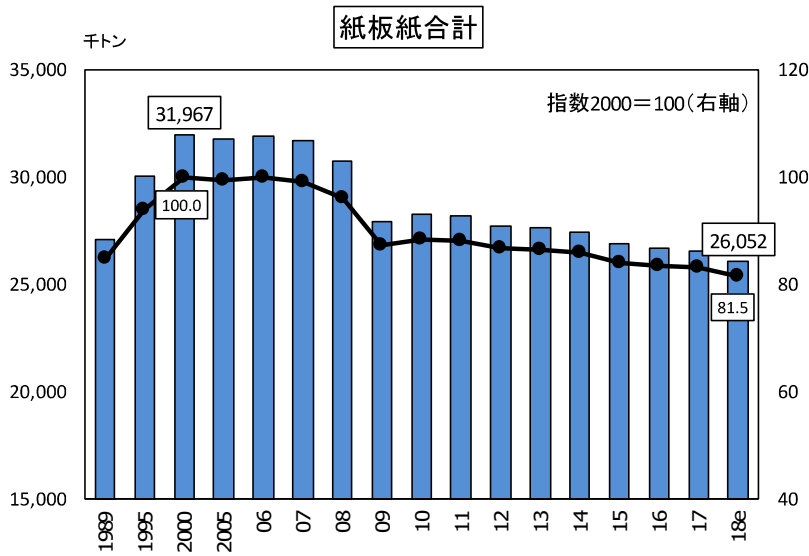


JPA IV. 参考①内需伸び率の推移(四半期見通し)

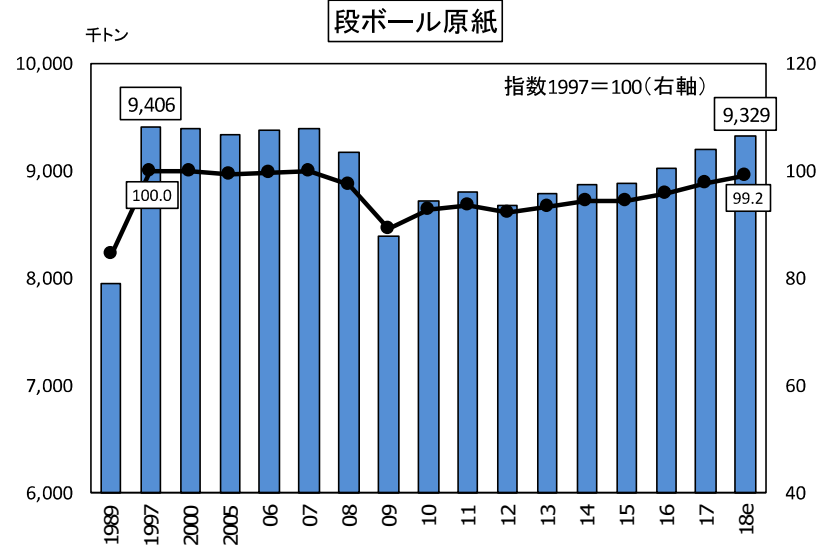
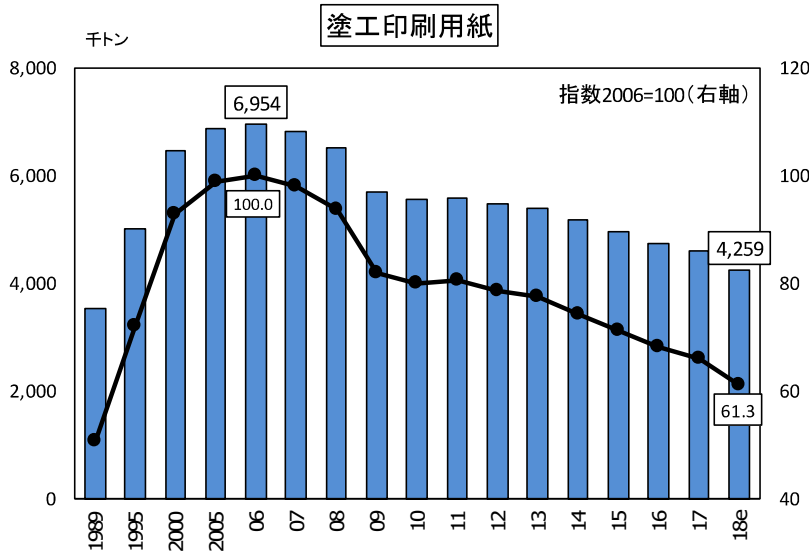
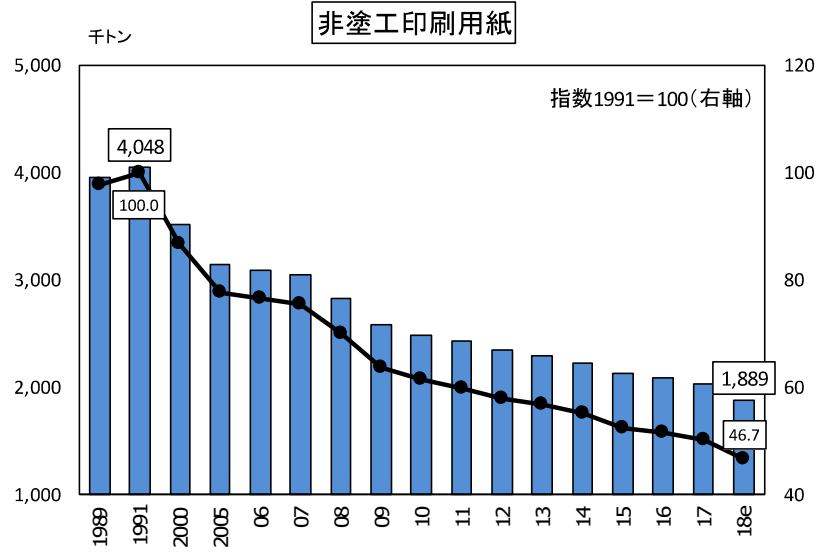
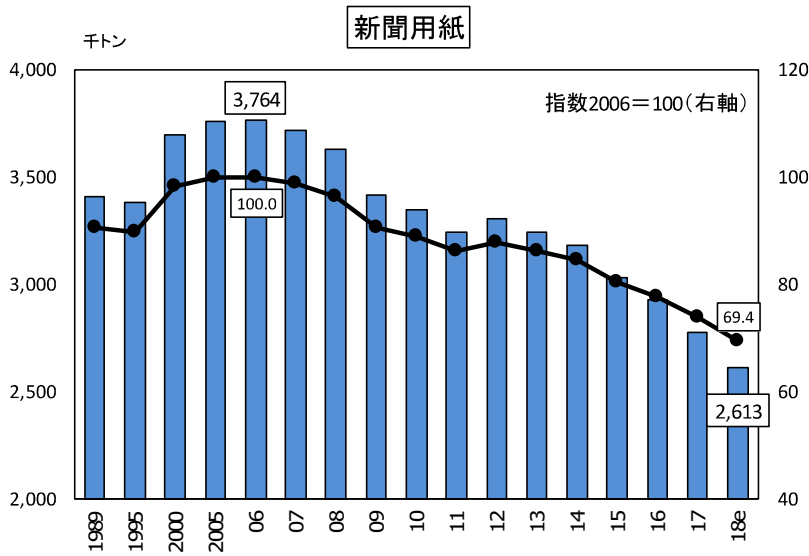
(単位: %)



JPA IV. 参考②内需量ピーク時比較



JPA IV. 参考②内需量ピーク時比較



JPA IV. 参考③

内需の定義について

「内需」は、国内出荷に輸入を加えた上で、流通在庫の増減分を加味して算出している。なお、輸入には、「原紙需給に大きく影響するとみられる紙製品及び原紙に類似した紙製品」として、ティッシュペーパー、トイレットペーパー、タオル用紙及びミルクカートン用紙(ポリエチレンラミネートしたもの)を含めている。

$$\text{内需量} = \text{国内出荷量} + \text{輸入量} + \text{流通在庫量の前年比増減量}$$

予測の仕方について

内需量は主要品種別に、ユーザー、流通、製紙企業それぞれの担当者へのヒアリングによる積み上げを基に試算している。

なお、予測値及び見込み数値等は2018年末時点で得られた11月までの実績を基に作成した。